

第 159 号

Super Highway

# 春闘速報 7

J R 東労組バス関東本部

発行日  
2026. 3. 5

## 春闘が生まれた理由と必要性

春闘は、単に「毎年春に賃上げを話し合う行事」ではなく、日本の労働者が自らの生活と働く権利を守るために積み重ねてきた歴史的な取り組みです。その背景を知ると、いま当たり前のように感じられる賃上げ交渉や労働条件改善が、決して自然に与えられたものではないことが見えてきます。

戦後の日本では、企業ごとにバラバラに賃金交渉をしても労働者側が弱く、生活を守るだけの賃金を得ることが難しい状況が続いていました。そこで労働組合が横につながり、同じ時期に、同じ要求を掲げて交渉する「統一闘争方式」が 1950 年代に生まれました。これが春闘です。企業ごとに孤立して交渉するのではなく、産業全体・社会全体で賃金水準を引き上げる仕組みをつくったことで、労働者の交渉力は大きく高まりました。

春闘によって、毎年の賃上げ（ベースアップ）・賞与や手当の改善・労働時間の短縮や休暇制度の整備・非正規雇用の処遇改善といった成果が積み重ねられてきました。これらは「企業が自主的にやってくれた」ものではなく、労働者が声を上げ続けた結果として社会に根づいたものです。

物価が上がり、働き方が多様化する中で、労働条件は放っておけば企業ごとに差が広がり、弱い立場の人ほど不利になります。春闘は、労働者が一人ではなく「集団」として交渉することで、社会全体の賃金水準や働く環境を底上げする役割を今も担っています。春闘は、過去の労働者が「声を上げなければ変わらない」と行動してきた積み重ねの上に成り立っています。組合に加入していない人にとっても、いま享受している多くの労働条件は、その努力の恩恵の上にあります。いま当たり前のように感じていることも決して当たり前ではないこと、当たり前であり続けることではないということを理解してもらえると、春闘の意味がより実感しやすくなるはずだと思います。

**J R バス 関東で働く仲間を一つに！**